

第 16 回小山田大龍地区まちづくりを考える会まちビジョン準備会
及びまちビジョン全体会報告書

2024. 5. 15

18:00～19:40

場所；大龍会館

■第 16 回準備会 参加者 会長他 9 名 市 3 名 市議 1 名、アドバイザーの計
15 名

1.大谷会長のあいさつ

以前から地区として要望していた南多摩尾根幹線道路の中央分離帯を横断できる交差点改良に絡む工事が動いている。

2. 前回の報告 アドバイザーと参加者の感想について

提出された意見書の紹介（計 6 通）（アドバイザー）

参加者からの感想等の議論（意見書の内容はネガティブなものは無く、概ね前向きなものだった）

- ・町内会とは別にまちづくりを考える会へ参加する人選は必要か？

今後、まちビジョンの策定に関しては市による手続きに進むが、月 1 回の会を継続し、具体的なまちづくり事業等の話し合いを進めていきたい

（会長）小山田町内会とは別だが、大龍町内会としては一体となって考える会を進める事としたい

- ・小山田地区の 3 地域（田中谷戸、中部地区、大龍地区）は忠生地域と連携し道路整備の話し合いを進めている。この話し合いの場は大龍地区としても考える会の副会長を送りたい（全員賛成）
- ・（会長）ハード整備は別としてこの街づくりは時間がかかるし、継続することが必要

3.里山交流館の経緯について（報告）

計画自体が遅れている状況。拠点施設は訪れる人、地域に暮らす人のために公設民営で整備される。

市としては 24 年度に基本構想を策定する予定。施設イメージとしては小野路と違い山林を育てる事を中心に据え、里山イメージでトレイルラン（自転車）なども考えている。整備できれば農産物の販売も考えられる。

小野路の交流館とは異なる施設を検討しており、拠点施設のほかランチ的な施設の整備もあり得る。（意見募集をする予定）

- ・場所は交通の便も考慮すると奈良ばい谷戸に簡易なログハウスのような物が良い
- ・奈良ばい谷戸の景観を殺さない施設整備が必要。
- ・公設民営という事では個人の力に頼るのもよい。
- ・奈良ばい谷戸も地権者の高齢化で土地の荒廃化が懸念される。
- ・通年で継続経営となれば採算性の話があり、野菜等の販売だけでは困難で饅頭やだんごといったものを販売しているところもある。この事が住民の負担になることも考えられる
- ・小野路里山交流館は建築時から道路景観に配慮したもので最近では隣接のcaféでも魅力的な取り組みが行われ、6～7年継続されている。

4.町内会について

本日は時間の関係で長い時間の議論が出来ないので次回以降としたい

- ・（会長）結論は 25 年 3 月末を目途に出したい。また、この考える会の活動が見えるようにしたい
- ・現在の大龍地区町内会長からあり方について 12 点にわたって視点が示された

5. 次回は 6/26（水）大龍会館 18：00～